vol.22　ミクソリディアンスケールの使い方について　～その 1～

では、vol.22、始めていきましょう。

今回から、ミクソリディアンスケールの内容に入っていきます。

トニックはＣキーの調性からＧ音を抜き出し、Ｇミクソリディアンでいきましょう。

代表的なスケールポジションは以下になります。

図 1、G ミクソリディアン重要ポジション、6 弦ルート

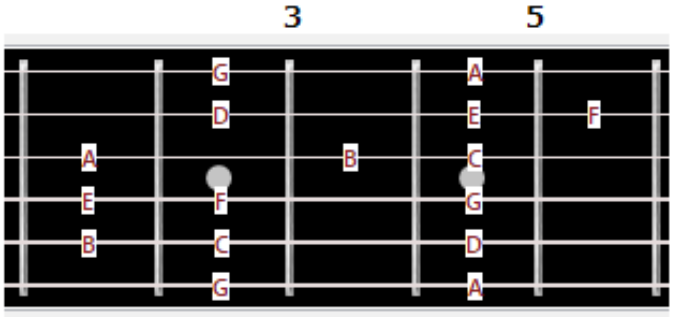
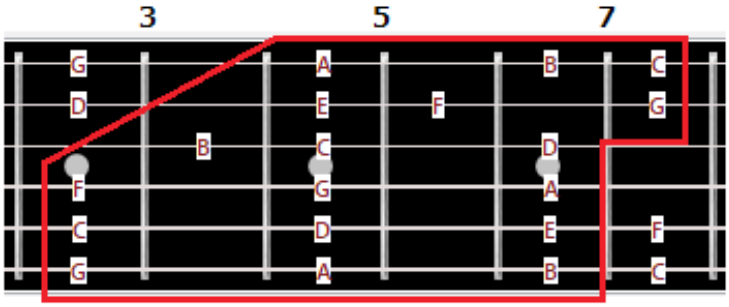


図 2、G ミクソリディアン重要ポジション、6 弦ルート(3 ノート・パー・ストリング)



5 弦ルートの場合はこの様になりますね。

図 3、G ミクソリディアン重要ポジション、5 弦ルート

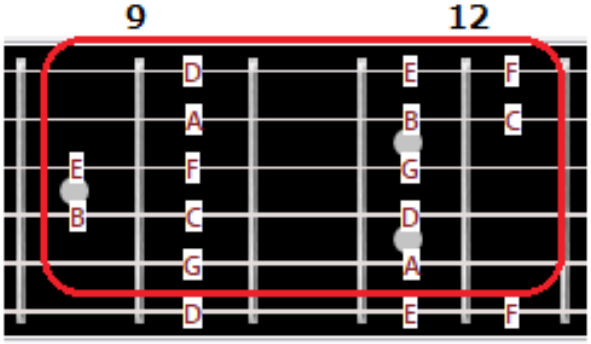
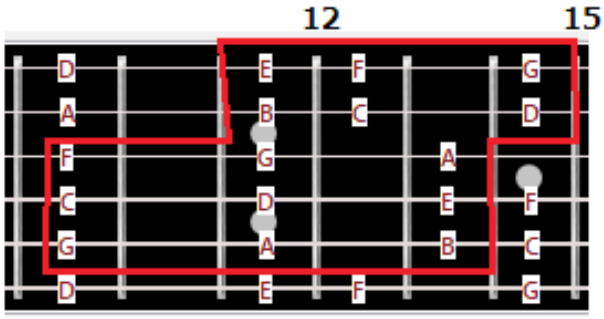


図 4、G ミクソリディアン重要ポジション、5 弦ルート(3 ノート・パー・ストリング)

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved



次に、ミクソリディアンの特性音ですが、これは m7th(♭7th)でしたね。

※G ミクソリディアンの構成音と特性音
G(tonic)、A(M2nd)、B(M3rd)、C(P4th)、D(P5th)、E(m6th)、F(m7th)

G ミクソリディアンの場合、F 音が特性音になるわけですが、これは E フリジアンの時の特性音と同じ音になります。

※E フリジアンの特性音
E(ronic)、F(m2nd)、G(m3rd)、A(P4th)、B(P5th)、C(m6th)、D(m7th)

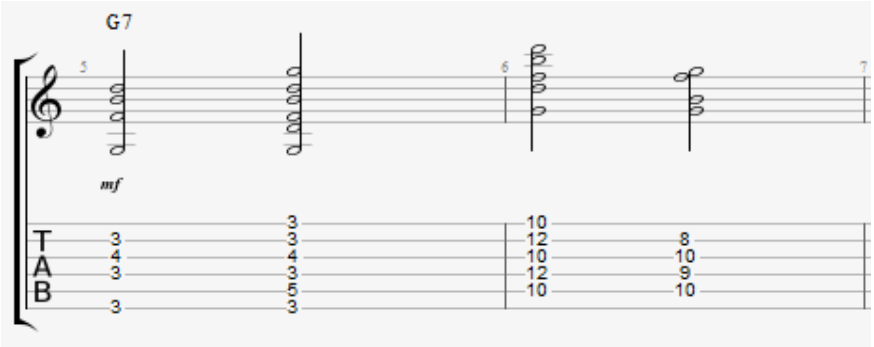
なので、同じ調性内のミクソリディアンとフリジアンのポジションでは、特性音の位置を同じ場所に見る事が出来るわけです。(※インターバルは変わりますが)

D ドリアンと F リディアンも同じような関係性にありましたが、複数のスケール間での共通項を把握しておくと、ひとつのポジションを異なる視点で活かせるようになっていきます。

続いて、ミクソリディアンの特性音を含んだコードですが、これはトニックから 3 度積みでコードを形成すると『X7』になりますね。

G(tonic)、A(M2nd)、B(M3rd)、C(P4th)、D(P5th)、E(m6th)、F(m7th)

譜例 1、G7、重要コードフォーム

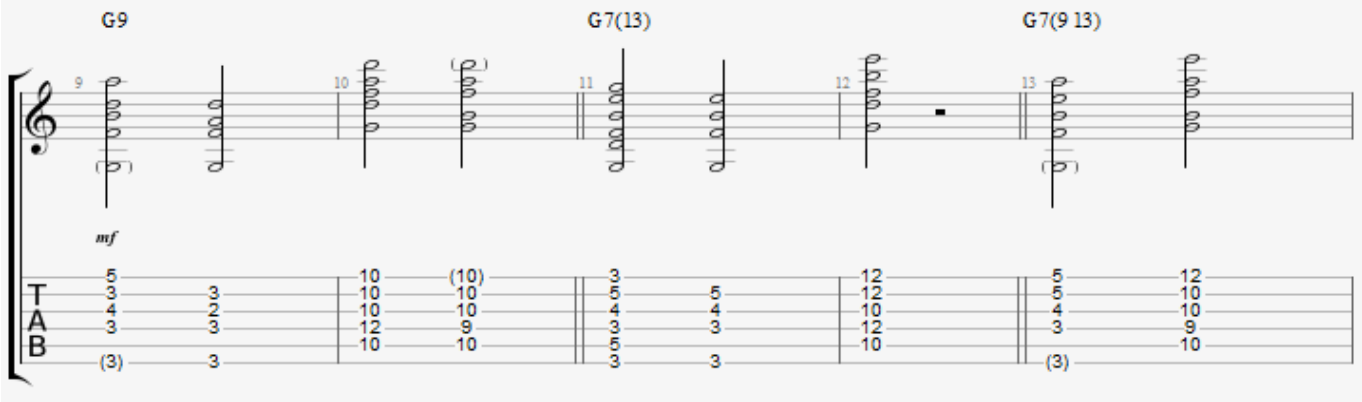


Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

他のモードの時は、XM7 か Xm7 にテンションとして特性音をプラスする様に考えていましたが、ミクソリディアンの場合、そもそもダイアトニックコード 7 種に X7 は 1 つしかないので、シンプルにこうなります。

この X7 に加えられるテンションとしては、主に 9th と 13th になり、代表的なコードフォームは以下の様なものが考えられます。

譜例 2、G7+テンション(9th&13th)、重要コードフォーム

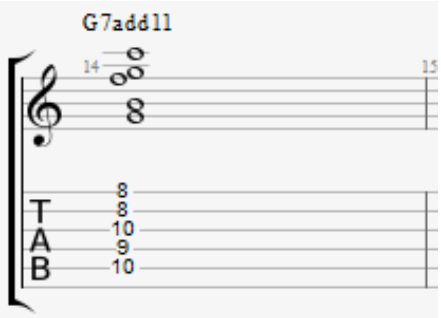


恐らく、ほとんどのものが、一度は弾いたことのあるコードだと思います。
(※ヴォイシングは他にも考えられます)

残っている 11th については、P4th として見た場合 M3rd に干渉するので(※アボイド)、通常、X7 にはほぼ加えません。

かと言って、絶対にダメ、と言うわけでもないのですが、もし X7 に 11th を加える場合は、どちらかと言えば M3rd の音とオクターブ以上離した方が無難でしょう。

譜例 3、G7add11、ヴォイシング例



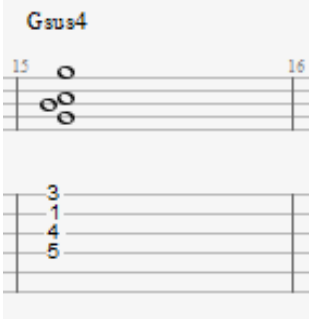
こう言った、アボイド・ノートが関わってくるヴォイシングは、ギター単体などの時はある程度許容できますが、バンドなどの大掛かりなアンサンブルの時は、他のパートとの兼ね合いがあるので避けた方が無難です。

と、言いつつも、ギターには、Xsus4 コードの時にあえて M3rd を加えるヴォイシングが

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

あったりもするのですが。

譜例 4、Gsus4＋M3rd

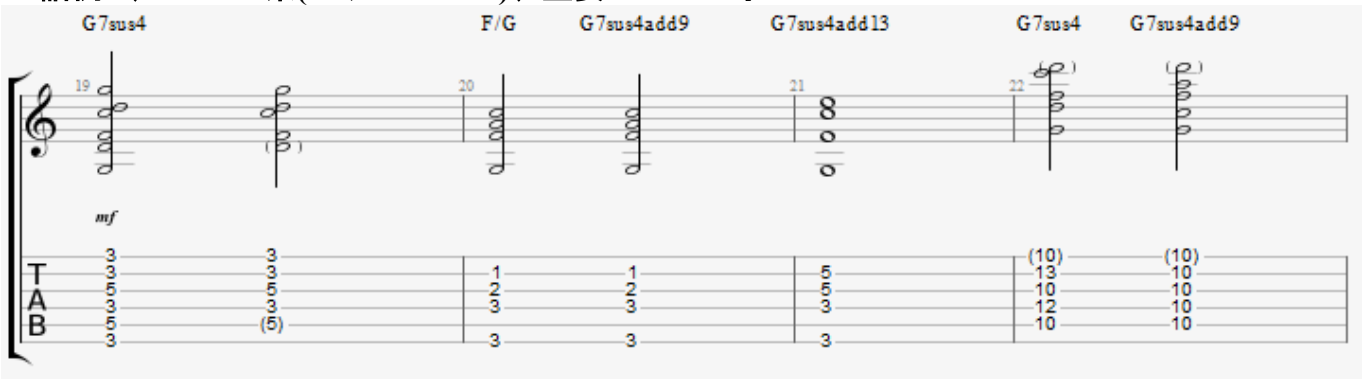


(※G 音ルートだとローポジションでストレッチ気味になるので、押さえるのがキツイ場合はもっと高い音をルートにして弾いてみて下さい)

これは通常ご法度である、M3rd と P4th を共存させたヴォイシングで、他の楽器ではあまりやらないのですが、なぜかギターではいい感じに響く、と言う事で使われています。

さて、今の例からも分かる様に、X7 に 4 度の音(P4th、11th)を加えたい時、多くの場合は M3rd が入っていない X7sus4 の形を取ります。

譜例 5、G7sus4 系(＋テンション)、重要コードフォーム



こちらも、譜例 2 の様に鳴らす音の増減を考えていくと、様々なヴォイシングが考えられますね。

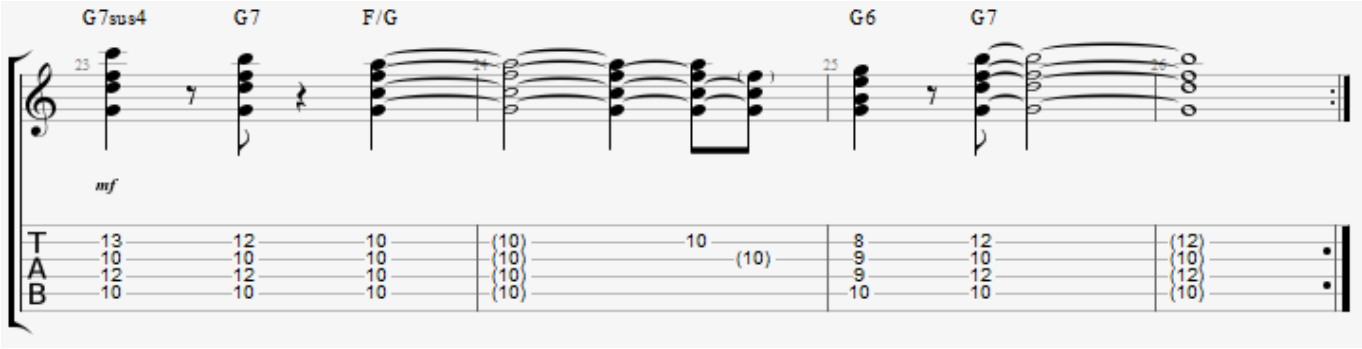
ギターの場合は構造的な限界もあり、構成音が多いコードを想定する場合は抜くべき音を選択していく必要があります。

この辺り、状況によって様々なパターンがあり一概には説明出来ないので、ここでは基本のコードフォーム、ヴォイシングを覚えておきましょう。

では、最後にミクソリディアン・モード的な譜例を弾いて終わりにしましょう。

譜例 6、G ミクソリディアン・モード、バッキングサンプル 1(BPM125～)

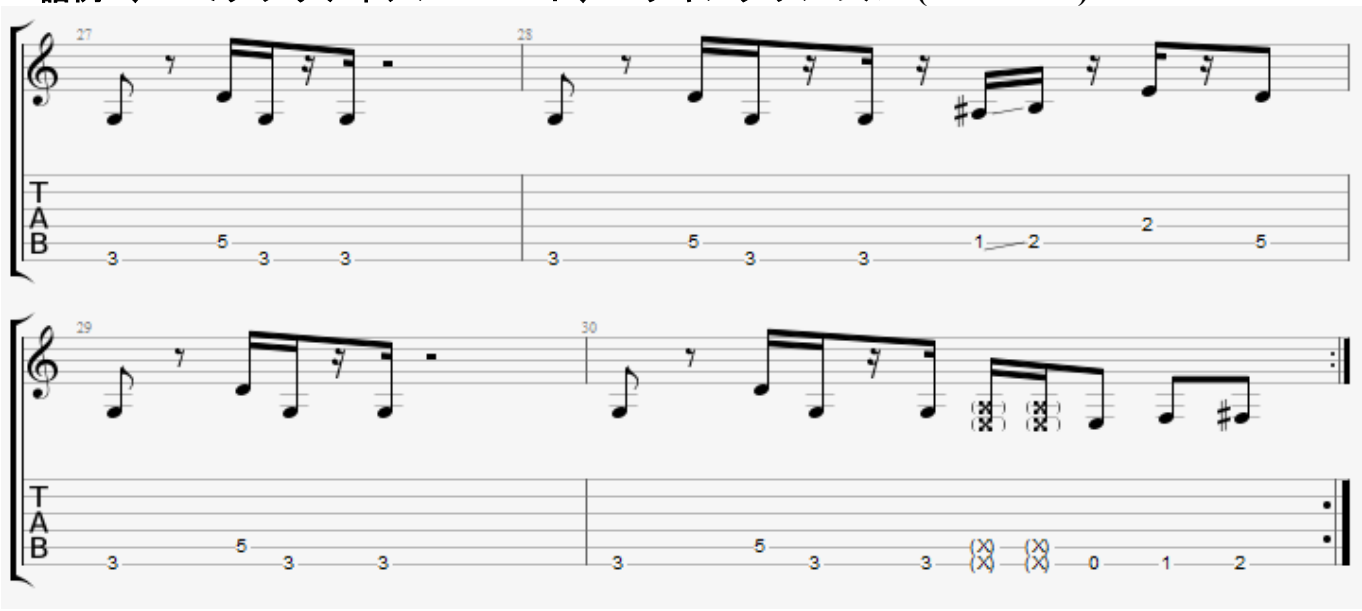
Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved



フュージョンっぽい楽曲でありそうなパターンですね。ここにベース等で低いＧ音がなっていたりすると、より雰囲気が感じられるでしょう。

もう一ついってみましょうか。

譜例 7、G ミクソリディアン・モード、バッキングサンプル 2(BPM120～)



こちらは少し、分かりやすい明るさを出すように作りました。

M3rd はもちろんの事、M6th でも明るさをコントロールできますので、自分で何かを作る時に参考にしてみて下さい。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved